

ワンパーセント

# イオン1%クラブ

vol.8  
2025 Winter



宮城大学チアーズ農園で育てたにんじんの収穫(イオン チアーズクラブ)

イオンワンパーセントクラブ活動レポート





堆肥の散布

配られた堆肥を手で丁寧にまいていきます



にんじん収穫体験

収穫のコツをつかんだ子どもたち



ユニークな形のにんじんに大喜び

にんじんの収穫では、にんじんが途中で折れないように注意しながら、一本ずつ丁寧に土から抜きました。鮮やかなオレンジ色のにんじんを見て、子どもたちの顔には自然と笑顔が広がりました。

堆肥まきの体験では、宮城大学の生食堂などから出る食品廃棄物を活用して作られた堆肥を畑全体に散布しました。本活動を通じて、資源が循環する仕組みについて学ぶことができました。

最後に、1年間お世話になった宮城大学チアーズ農園の皆さんへ感謝の気持ちを込めて、メンバーからお礼のあいさつとアルバムを贈呈しました。



さつまいも収穫体験

# AEON Cheers Club Report

## イオン チアーズクラブ活動レポート

イオン チアーズクラブは小中学生を対象とし、環境や社会貢献に興味・関心を持ち、考える力を育む場として、全国約450店舗を拠点にさまざまな体験学習を行っています。

メンバーと協力して沢山のさつまいもを収穫

**宮城大学チアーズ農園とは？**  
2024年5月に公立大学法人宮城大学のご協力のもとで坪沼農場（宮城県仙台市）内に開園。2023年に開園した「牛久チアーズ農場」（茨城県牛久市）に続く2カ所目のイオン チアーズクラブ専用の農園で、産学協働では初めての取り組みです。



みずみずしい色に！



今から食べるのが楽しみ！



一人ではなかなか抜けません



自分で収穫したにんじんを手にし、宮城大学の教授、学生の皆さんと記念撮影



立派なさつまいもが取れました！

見て、触れて、考える！

**「宮城大学チアーズ農園」でさつまいも、にんじんの収穫体験**

「宮城大学チアーズ農園」（宮城県仙台市）にて、2024年10月27日（日）に、イオンチアーズクラブ「仙台卸町」と「仙台幸町」のメンバー18名が本年4回目となる活動を行いました。この活動では、5月に苗を植えたさつまいもの収穫や堆肥の散布、7月に種をまいたにんじんの収穫を行いました。

まず始めに、子どもたちは宮城大学の学生が作成したクイズに挑戦し、さつまいもの種類やその歴史について学び、作物への知識を深めました。

さつまいもの収穫では、「どんなに掘ってもなかなか抜けない！」と、子どもたちは収穫の大変さを体感しながら学生と一緒にさつまいもを収穫しました。また、大きなさつまいもを手にした子どもたちからは「大きく育ってびびくりした。早く食べてみたい」と、苗から成長したさつまいもに驚きの声が上がりました。





港区虎ノ門にある気象科学館で緊急地震速報の仕組みを学習

### 環境エコツアー

表彰式の後に開催された「環境エコツアー」では、参加者はまず気象科学館（東京都港区）を訪れ、気象観測機器などを見学し、実際に触れることで気象に関する理解を深めました。翌日には、スモールワールズ（東京都江東区）で、SDGs（持続可能な開発目標）を啓発するポスター作成のグループワークを行い、意見交換を通じて環境保全や持続可能な未来への意識を高めました。



意見交換をしながらSDGsを啓発するポスターを作成



江東区有明にあるミニチュアミュージアム「スモールワールズ」を見学し、ポスター作成のための情報を収集



完成したポスターをグループで発表



東京駅にて、「1%」を表すポーズで撮影

### 「中学生作文コンクール」とは？

中学生が、環境に関する社会問題をテーマに自分自身の考えをまとめ、書く力を養うことを目的に2003年から実施しています。受賞者は表彰式や環境エコツアーに参加し、環境についてのディスカッションや施設見学を通して、環境保全の意識を高めます。

## 第22回 中学生作文コンクール 表彰式

主催 / 公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ  
後援 / 文部科学省 環境省 朝日新聞社 朝日学生新聞社



受賞者と審査員による記念撮影  
前方中央左から清水審査員、高田審査員、イオンワンパーセントクラブ 森理事長、汐見審査員、依田審査員



交流会は最終審査員の方々より話を直接聞く貴重な機会に



イオンワンパーセントクラブ 森理事長より文部科学大臣賞の賞状授与

## 第22回表彰式と特別講演会、環境エコツアーを開催

### 表彰式・特別講演会

第22回目となる今回は、「私にできる気候変動対策」をテーマとして、全国から7,512編の作文が寄せられました。この中から、文部科学大臣賞1名、優秀賞9名、入賞20名が選ばれました。2024年11月30日（土）に、浜離宮朝日ホール小ホール（東京都中央区）で行われた表彰式では、受賞者に賞状が授与され、3名の受賞者がそれぞれの作文を朗読しました。

表彰式の後は、テレビ朝日お天気キャスター・気象予報士の依田司氏による特別講演会「地球温暖化 私たちができること」を開催しました。異常気象や2100年の天気予報についてのお話をいただき、受賞者は気候変動対策の大切さを学ぶ貴重な機会となりました。



受賞者による作文朗読

考えをまとめ、書く力を養う  
中学生作文コンクール





公益財団法人イオンワンパーセントクラブ  
近野教育振興会奨学金事業 移管記念式典

来場された方々との記念撮影

## 人づくりは、未来づくり 近野教育振興会から奨学金事業を承継



記者会見の様子  
左からイオンワンパーセントクラブ 森理事長、近野教育振興会 鈴木理事長

2024年8月に、公益財団法人近野教育振興会(山形県米沢市)より、同振興会の山形県米沢市内の高校生に対する奨学金事業を、「近野教育振興基金」として承継しました。

同振興会は、1992年に近野兼史氏が私財を投じ設立しました。ジャスコ株式会社(現・イオン株式会社)と合併した、かくだい食品株式会社との創業者である近野氏は、故郷米沢への感謝と恩返しを込めて、32年間にわたり累計485名の高校生に奨学金を給付してきました。

2024年11月10日(日)には、米沢市内で「近野教育振興会奨学金事業移管記念式典」を開催しました。式典では、山形県知事や米沢市長をはじめとする来賓の方々や、OBを含む奨学生たちを招いて、同振興会の歩みを振り返り、これまでの功績を称えました。



上記のコードを読み取ると近野教育振興基金の概要書についてご覧いただけます。

### 「近野教育振興基金」の新たな取り組みとは?

前身の近野教育振興会が大切にしてきた「人づくり」の精神を受け継ぎ、優秀な若者が、未来を担う人材として成長することを願って2025年度より支援対象を米沢市から山形県置賜地区へ拡大するとともに新たに大学生奨学金を設けます。



イオンワンパーセントクラブ 森理事長と各部門の受賞者  
(上) 普及・啓発部門 内閣総理大臣賞は岡山県立岡山南高等学校(商業クラブ)  
(下) 研究・専門部門 内閣総理大臣賞は鹿児島県立曾於高等学校(科学部)



参加者、来賓と審査員による記念撮影  
左から落合氏(合同会社めだか教育デザイン)、高市氏(文部科学省)、黒部氏(環境省)、平地氏(株式会社毎日新聞社)、イオンワンパーセントクラブ 森理事長、五箇審査委員長、吉川審査員、野口審査員、白井審査員



環境エコツアーでマイクロプラスチックを観察

# イオン エコワン グランプリ

伝えたい、私が取り組むエコ活動

### イオン エコワングランプリとは?

高校生が日ごろ、学校で取り組んでいる環境保全や社会貢献のための活動を発表し、表現力や発信力を向上させることを目的に2012年より開催しています。



研究の成果を堂々と発表!

13回目となる本年は、2024年12月14日(土)、東京都内の会場で、最終審査会・表彰式を開催しました。今年度は「普及・啓発部門」81件、「研究・専門部門」46件の計127件の環境保全に関する取り組みが寄せられ、一次審査、二次審査を経て選出された11校が最終審査会に臨みました。各校の発表者は、他校の生徒を前に、日ごろの取り組みの成果をプレゼンし、審査員からの質問にも堂々と答えるなど、自分たちの活動を大いにアピールしました。

プレゼンテーション終了後、審査員による討議が行われ、内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞・環境大臣賞などの受賞校を決定しました。表彰式では受賞校に賞状と副賞としてエコ活動奨励金を授与しました。

表彰式終了後の懇親会では、他校の学生とお互いの活動を紹介し合った。審査員の方々に積極的に質問をしてプレゼンテーションのコツや今後に向けてのアドバイスをいただきました。また、表彰式翌日には環境エコツアーに参加しました。竹芝干潟(東京都港区)で、水生生物や海浜植物を調査し、環境保全について学びました。





中国の民族衣装「漢服」を着て散策を楽しむ高校生たち

**北京市と湖南省で  
中国の歴史や伝統文化を体験**

高校生たちは、北京市で2日間活動した後、北京市と湖南省に分かれてそれぞれのプログラムに参加しました。北京市では、参加者たちは漢服を着用して故宮の散策や、榮宝齋での版画体験、万里の長城などを見学しました。また、湖南省では、岳麓書院や火宮殿の見学などを通じて中国の伝統や文化について積極的に学びました。

**歴史・文化活動**



版画でパンダを描いてみました



水墨画のレクチャーを受ける高校生たち



素敵な作品が  
できあがりしました



ホームステイ先で中国の家庭料理を味わう様子



また会う日まで!

**交流活動**

**ホームステイや授業体験を通じて中国の暮らしを理解する**

日本と中国の高校生がペアを組み、現地でのホームステイや授業体験を通じて、中国の生活や文化に直接触れました。この交流で、高校生たちは両国の違いを肌で感じ、国際的な相互理解を深める貴重な機会となりました。

**参加者の声**

**東洋大学附属牛久中学・高等学校(生徒)**

中国のよさと人の温かさを実感しました。言語の壁に直面し、悔しい思いをすることが多々ありましたが、それを乗り越えるために、もっと中国語を勉強しようと思います。

**立命館守山中学校・高等学校(引率の教員)**

生徒たち一人ひとりが文化の違いに向き合う大切さを感じられたことが、彼らの今後にとって、またこのプログラムの目指す友好親善に対する、大きな収穫だったと思います。自分自身で得る情報の大切さを実感できたと思います。

**神戸市立葺合高等学校(生徒)**

中国の方には、みんなを喜ばせようというホスピタリティーを感じました。日本では、他の国にはまねできない丁寧さを改めて感じ、それが日本のよいところだと感じました。異なる文化を実際に見て、理解を深めることで友好が促進され、交流が活発になると感じました。

**東京学芸大学附属高等学校(参加生徒の保護者)**

家族みんなでワクワクしながら準備を進め、楽しい時間を過ごすことができました。かわいい娘が一人増えたようで、うれしく思います。百聞は一見にしかず。中国のイメージが変わりました。今後もよき友情が続くことを願います。大変貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。



中国の高校生より在中国日本国大使館 金杉憲治大使へ記念品を贈呈

ティーンエイジ アンバサダー

アジアの  
国々をつなぐ  
友好の輪

**中国でティーンエイジ アンバサダーのさまざまなプログラムを実施**

2024年10月14日(月)から19日(土)までの6日間、日本の外務省と中国大使館の後援を受け、中国の北京市と湖南省にて、ティーンエイジ アンバサダーの活動が行われました。

このプログラムには日本の4校から40名、中国の4校から40名、合計80名の高校生が参加し、「小さな大使(アンバサダー)」として「表敬訪問活動」「歴史・文化活動」「交流活動」の3つの活動を通じて、中国に対する理解を深めました。



▲2024年7月に行われた日本プログラムの様子はこちらでご覧いただけます。

**表敬訪問活動**

中国外交部、北京市人民政府、湖南省人民政府への表敬訪問と日本国大使館での歓迎会に参加

中国外交部の劉勁松アジア司長からは、「自分の目と耳、そして心で中国を理解し、自分の中の正しいと思っ中国を発信してください」というメッセージが伝えられ、高校生たちは小さな大使としての役割を再認識しました。在中國日本国大使館では、日井将人公使との交流会が行われ、質疑応答のお時間をいただきました。

その後の歓迎会で、金杉憲治大使から、「今回の事業を通して理解したことを、ぜひ高校生の皆さんのそれぞれ得意な方法で情報を発信していただくことが、今できる日中友好の架け橋につながる行動です」との言葉をいただきました。高校生たちは、世界の架け橋として活躍する方々からお話を直接お聞きし、友好親善の重要性を改めて理解しました。

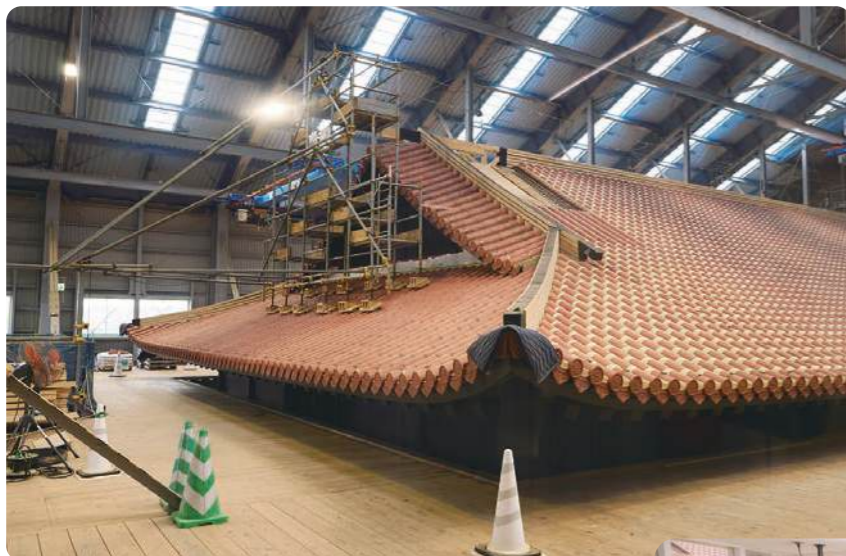
**ティーンエイジアンバサダーとは?**

日本と海外の高校生が互いの国を訪問し、国際的な相互理解と親交を深める交流プログラムです。同世代の若者たちが小さな大使(アンバサダー)となり、相手国の文化や生活習慣等に直接触れ、友情を育むことで、友好親善を回り、平和に寄与することを目的としています。



中国外交部にて劉勁松アジア司長を表敬訪問





復元工事中の瓦屋根

だんだんと復元が進む様子に  
子どもたちも大興奮!



首里城公園の方から説明を受けながら復元中の正殿を見学

### 復元工事中の首里城見学を実施

受賞者20名とその保護者は、復元工事中の首里城を見学しました。子どもたちからは、「技術や伝統が過去から未来へと継承されていることを理解した」「正殿が完成したら、また訪れたい」「早く元の美しい姿に戻ることを願っている」といった感想が聞かれました。この見学を通じて、首里城への理解が深まり、復興を祈る気持ちも、いっそう強まった様子でした。



左上からイオン琉球 鯉淵社長、沖縄県 玉城知事、イオンワンパーセントクラブ 森理事長、赤嶺審査委員長、ポスターコンクール受賞者

### 寄付金贈呈式と ポスターコンクール表彰式を開催

2024年11月3日(日)、首里城公園(沖縄県那覇市)で、5回目となる寄付として1億円を沖縄県に贈呈しました。贈呈式には沖縄県玉城知事が出席され、イオンワンパーセントクラブの森理事長より1億円の目録を贈呈しました。2019年からの寄付総額は、緊急支援金を含め5億1000万円となり、2026年秋に完成予定の正殿復元工事や、若手技術者の育成などに役立てられています。

首里城の復興は、みんなの願い!



同日行われた「イオンチアーズクラブ首里城復興支援ポスターコンクール」の表彰式では、全国から寄せられた794名の作品の中から、受賞者20名に表彰状を授与しました。受賞者を代表して6名が「ちばりよー(頑張れ)! 首里城」と声を合わせて応援メッセージを送りました。これに対し、玉城知事は「エールを送っていただき、ありがとうございます。イオンチアーズクラブぐすーよー(皆さん)ちばりよー(頑張れ)!」と感謝の言葉を述べられました。



子どもたちが声を揃えて応援メッセージを唱和しました

### ポスターコンクール作品展示

「イオンチアーズクラブ首里城復興支援ポスターコンクール」は、全国の子どもたちが首里城を描くことで復興を支援するとともに、歴史ある文化遺産について学ぶことを目的に実施しています。2024年10月30日(水)から11月10日(日)まで、首里城公園内の首里杜館(すいむいかん)で作品を展示しました。

会場では、全国から寄せられた794点の作品から選ばれた受賞

作品と、沖縄県内のイオンチアーズクラブメンバーが描いた作品計48点を展示しました。これらの作品は子どもたちが首里城の復興を願って描いたもので、色鮮やかで力強いメッセージが込められています。2024年11月から2025年5月にかけて、全国のイオンモールで受賞作品と近隣のイオンチアーズクラブメンバーの作品を展示します。ぜひ会場に足をお運びください。



受賞作品と沖縄のメンバーが描いた力作を展示

#### 首里城復興支援とは?

2019年10月末に世界遺産である首里城が火災により甚大な被害を受けたことに対して、緊急支援金1,000万円を贈呈するとともに、5年間で5億円の寄付を行うことを表明し、支援を行っています。



▲詳しくはこちら



## 財団概要

### 笑顔あふれる未来をつくる。

イオンワンパーセントクラブは、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオングループの基本理念を具体的な行動に移し、社会的責任を果たすことを目的に、グループ各社の参画のもと、1990年に設立されました。

以来30年以上にわたり、お客さまにイオングループをご利用いただき、生まれた利益の1%相当額をもとに、「子どもたちの健全な育成」「諸外国との友好親善」「地域の発展への貢献」「災害復興支援」を主な活動領域として、環境・社会貢献活動に取り組んでいます。

## ご寄付のお願い

### 次代を担う子どもたちのために、皆さまのご支援をお願いいたします。

イオンワンパーセントクラブでは、子どもたちの教育や国際交流、地域文化の保全などの活動に取り組んでいます。なお、当財団は、内閣総理大臣より「公益財団法人」としての認定を受けておりますので、当財団への寄付金については、所得税（個人）、法人税（法人）の控除が受けられます。

### ご寄付の方法

クレジットカード  
決済

WAON POINT  
利用

銀行振込

右記のコードを読み取り、  
寄付受付画面にお進みいただき、ご寄付の方法をお選びください。

<https://aeon1p.or.jp/1p/about/donation/>



### 編集後記

第8号では、宮城大学の皆さんと協力して大きなさつまいもを収穫するチアーズクラブのメンバーの様子や、環境問題への取り組みについて堂々と発表をする学生の様子をお届けしました。立派に育ったさつまいもを土から掘り出した瞬間の子どもたちの驚いた表情と笑顔が強く印象に残っています。活動の様子は、HPやInstagramでもご紹介しておりますのでぜひご覧ください。本年も、「イオン1%クラブ」をよろしく願っています。

(佐伯)

## 公益財団法人

ワンパーセント

# イオン1%クラブ

[発行元] 公益財団法人イオンワンパーセントクラブ

〒261-8515 千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目5番地1

Tel 043-212-6023 Mail 1p@aeon.info

右記のコードを読み取ると  
当財団の活動詳細をご覧いただけます。

<https://aeon1p.or.jp/1p/>

